

平成31年4月1日

宗像市長 伊豆 美沙子 様  
(宗像市議会議長経由)

議員名 安部 芳英



宗像市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定により、以下のとおり平成30年度政務活動費収支報告書を提出します。

平成30年度政務活動費収支報告書

1 収入

政務活動費 264,000 円

2 支出

(単位：円)

項目	領収書額	政務活動費報告額
研修開催費		
調査研究費	65,440	65,440
資料作成及び資料購入費	7,916	7,000
広報及び広聴費	273,888	191,560
人件費		
事務所費		
合計	347,244	264,000

3 残額

0円

4 添付書類

領収書等証拠書類



平成30年度政務活動費明細一覧表

No	内容	項目	費目										領収書額	政務活動費報告額			
			旅費	講師謝金	出席負担金	印刷製本費	図書購入費	備品購入費	消耗品費	使用料	郵送料	手数料			賃金	その他	
1	会派視察(10月)	調査研究費	65,440													65,440	65,440
2	フリック消耗品代	資料作成・資料購入費								7,916						7,916	7,000
3	活動報告チラシ(平成30年3月議会分2000枚)	広報及び広聴費				68,472										68,472	47,890
4	活動報告チラシ(平成30年6月議会分2000枚)	広報及び広聴費				68,472										68,472	47,890
5	活動報告チラシ(平成30年9月議会分2000枚)	広報及び広聴費				68,472										68,472	47,890
6	活動報告チラシ(平成30年12月議会分2000枚)	広報及び広聴費				68,472										68,472	47,890
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
合計			65,440			273,888				7,916						347,244	264,000

研修開催費	
調査研究費	65,440
資料作成・資料購入費	7,916
広報及び広聴費	273,888
人件費	191,560
事務所費	
合計	347,244

65,440	65,440
7,916	7,000
273,888	191,560
347,244	264,000

視察・研究研修会・会議等概要報告書

宗像市議会議員 安部 芳英

項目	<input type="checkbox"/> 1 研修開催費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 調査研究費 <input type="checkbox"/> 4 広報及び広聴費		
名称	広報紙について		
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 視察 <input type="checkbox"/> 研究研修会 <input type="checkbox"/> 会議 <input type="checkbox"/> 報告会 <input type="checkbox"/> その他(                    )		
日程	平成30年10月16日(火)～平成30年10月16日(火)		
時間	14:00 ～ 15:30	場所	埼玉県 三芳町
概要	<p>①予算 当初外部委託 1,100 万円、公報改革後に 537 万円に圧縮</p> <p>②発行部数の推移について 16,000 部/月→16,200 部/月（読者数の増加）広収入 230 万円/年額</p> <p>③デザイン刷新の経緯 市長が職員に対して広報紙の専任希望者を募った 広報紙が捨てられているのを見て奮起した</p> <p>④おもな成果について 職員による広報改革がなされた、予算の圧縮、広報紙が内閣総理大臣賞を受賞 広報紙で情報収集する町民が増加、広告収入の増加、住民の行動変容など</p> <p>⑤編集部署の人員体制 改革当初 1 人だったが、現在は 3 人の職員を配置</p> <p>⑥業務内容について 印刷費以外は全て行う。ホームページ管理、職員全体への広報講座も行っている。</p> <p>⑦年回発行回数 12 回発行</p> <p>⑧カタポケについて スマホアプリを活用することで若年層の巻き込み、統計も行える</p> <p>⑨紙版の配布方法 シルバー人材センターに全戸配布委託</p> <p>⑩レターパックライトの町民の反応について 全国からの取り寄せは 10～15 件</p> <p>⑪議会報との連携実績や相乗効果 広報紙に議会報を挟んで配布しているので手に取ってもらえる機会は増えている。 議会広報委員会で編集担当者による勉強会を計画している。</p>		

## 様式2

### 所 感

- ・ 広報紙は住民に対するラブレターという表現には激しく共感した。広報紙は単に行事などの情報発信だけではなく、まちの魅力を再認識したり、まちのことをさらに好きになる住民が増える機会としても活用し、まちをよくするために自走する住民の醸成、シビックプライドの醸成はシティプロモーションの基礎となるということを確認することができた。
- ・ 12月議会の一般質問において宗像市の広報紙のあり方や、改善、配布方法についての抜本的な改革案を提案する予定であったので、参考になった。
- ・ 本市は外部団体に1,000万を超える協働委託を行っているが、三芳町は職員3人でホームページ管理と広報紙のDTP、その他の業務もこなしていると伺ったので今後コストにさらに注目したい。
- ・ 実際に宗像市の広報紙タウンプレスを持参して三芳町の広報担当者に見ていただいた。写真の撮影ポイントや見出しの大きさ、キャッチコピーについてご助言をいただいた。

### 視察状況(三芳町役場)



様式2

視察・研究研修会・会議等概要報告書

宗像市議会議員 安部 芳英

項目	<input type="checkbox"/> 1 研修開催費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 調査研究費 <input type="checkbox"/> 4 広報及び広聴費		
名称	デマンド型乗合タクシーについて		
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 視察 <input type="checkbox"/> 研究研修会 <input type="checkbox"/> 会議 <input type="checkbox"/> 報告会 <input type="checkbox"/> その他(                    )		
日程	平成30年10月17日(水)～平成30年10月17日(水)		
時間	10:00 ~ 11:30	場所	神奈川県 秦野市
概要	<p>&lt;主な質問&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>デマンド型乗合タクシー導入に至る背景・経緯について 元々路線固定でしていたが他の地区よりも利用者が少なかった、デマンド型の方が有効ということで取り入れた。</li> <li>導入に際しドア to ドアの選択肢検討があったか 運輸局の許可が下りなかった</li> <li>導入検討にあたり交通事業者（タクシー会社・バス会社等）との交渉・調整について。 企業連携を模索したが、業者側から1社選定の要望が出たのでプロポーザル方式で選定、事前に説明して納得してもらったうえで入札に参加してもらった。 トラブルなどは一切なかった。</li> <li>実施コストについて 平成20年 乗合タクシー1,900万円 収入258万、市の負担980万円（国の補助金660万円） デマンド型は10万前後で推移している</li> <li>実施後の利用者の声について 無くてはならない交通になっている、課題はバス停まで歩いていけなくなってきたこと。 公共交通推進課と高齢者担当の連携が必要。</li> <li>実施後の交通事業者の反応について 苦情などない、事業者側から負担を出している（地域貢献）</li> <li>実施後の成果と課題について 導入効果はある。地域住民交通弱者との話し合いを行い地域の实情にあったやり方を行うことが大事。</li> </ol>		

## 様式2

### 所 感

- ・ 秦野市は10年間で5,000人減少、165,000人、すでに人口減少が始まっており、職員や住民が危機感を持ってまちづくりを行っているように感じた。
- ・ 本市の場合は乗り合いの構築よりも高齢者支援対策予算でタクシー助成制度の研究を行う方がニーズ、コスト面で効果が出るのではないかと感じた。
- ・ 秦野市内には4つの駅があるので、小田急電鉄と連携協定を提携し立地適正化や周辺経済の活性化などについて具体的な事項を定めている点が非常に参考になった、本市においても3つの駅周辺の機能、魅力向上においてJRとの連携を深めていくように今後議会でさらに提案を進めて行く。
- ・ 「何でも市に頼る」考え方から、「自分たちでやる」考え方に変わってきたのは職員が住民と時間をかけて話し合いを行い「できない」ことははっきりと断って行く姿勢を見せたことが影響したと感じる。

### 視察状況(秦野市)



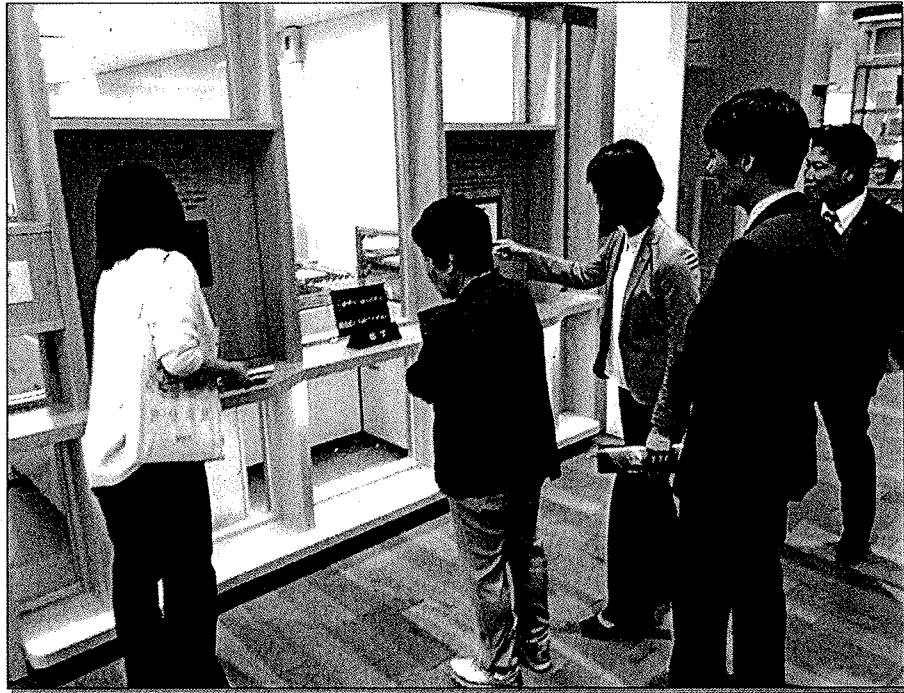
様式2

視察・研究研修会・会議等概要報告書

宗像市議会議員 安部 芳英

項 目	<input type="checkbox"/> 1 研修開催費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 調査研究費 <input type="checkbox"/> 4 広報及び広聴費		
名 称	図書館シリウスについて		
分 類	<input checked="" type="checkbox"/> 視察 <input type="checkbox"/> 研究研修会 <input type="checkbox"/> 会議 <input type="checkbox"/> 報告会 <input type="checkbox"/> その他(                      )		
日 程	平成30年10月17日(水)～平成30年10月17日(水)		
時 間	14:00 ～ 16:00	場 所	神奈川県 大和市文化創造拠点 シリウス
概 要	<p>&lt;主な質問&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設開設の経緯について           <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の主な役割・・・図書館・芸術文化ホール・生涯学習センター・屋内こども広場を中心とした文化複合施設。</li> <li>図書館など施設の統廃合について市民と議会の反応について・・・移転での対応、議会は賛成多数で可決。</li> </ul> </li> <li>指定管理者制度について           <ul style="list-style-type: none"> <li>制度導入のメリットについて・・・直営の課題、民間ノウハウの活用に利点 民間事業者6社による融合を図った。</li> </ul> </li> <li>成果について           <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数 来館者数目標 100万人→300万人(想定以上に多いため受け入れ切れないことが次の課題となっている)</li> <li>収益部門の来場者数は50万人</li> <li>図書部門で250～270万人(滞在型図書館機能)</li> <li>年間コスト 3,400円/年/人</li> </ul> </li> </ol>		
所 感	<ul style="list-style-type: none"> <li>大和市民(235,000人)、シリウスの年間委託料(79,800万円)なので一人当たり年間コストはおおよそ3,400円になる。一方、宗像市民(96,000人)、宗像ユリックスの年間委託料(36,800万円)+図書館(8,700万円)なので、一人当たりの年間コストはおおよそ4,700円になる。しかしながら、年間利用者数はシリウスが300万人で宗像ユリックスは971,000人(図書館以外の利用者数594,000人+図書館来館者数377,000人)であり、建設時期や人口、立地条件など比較できない要素もあるものの、本市のほうが割高であると認識した。</li> <li>まちの中心拠点である駅前再開発に合わせて公共施設の移転や複合化、高層化を行うことはもはや常識的な発想だと考える。本市も実践できる土地を所有しているので市民のメリットを優先的に考えて選択と集中の議論をすべきと感じる。</li> <li>プレイヤーを集めることには、多くの苦勞を要したはずだが民間企業、団体6社が運営に名乗りを上げたことから理解できるように、様々な企業メリットを持ち合わせている施設となっている。民間に頼るのではなく、民間にもメリットを与えていくことが今後の施設経営に不可欠であると再認識した。</li> </ul>		

視察状況(大和市)





様式2

視察・研究研修会・会議等概要報告書

宗像市議会議員 安部 芳英

項目	<input type="checkbox"/> 1 研修開催費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 調査研究費 <input type="checkbox"/> 4 広報及び広聴費		
名称	文京版ネウボラ事業について		
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 視察 <input type="checkbox"/> 研究研修会 <input type="checkbox"/> 会議 <input type="checkbox"/> 報告会 <input type="checkbox"/> その他(                    )		
日程	平成30年10月18日(木)～平成30年10月18日(木)		
時間	10:30 ～ 12:00	場所	東京都文京区
概要	<p>①どのような課題があってネウボラを導入したかについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族化、地域のつながりの希薄化等により、昔に比べて地域で妊産婦やその家族を支える力が弱くなってきたことで、出産直後の心身のケアや妊産婦の孤立感の解消等が必要となった。</li> <li>・妊娠・出産支援を強化し、地域において、妊娠期から出産、子育て期を支援する必要性があった。</li> </ul> <p>②ネウボラ導入によってどのような変化が現れたかについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数の増加（平成26年3,704件→平成29年5,761件）</li> <li>・相談率の増加（平成26年54.4%→平成29年84.7%）</li> </ul> <p>③ネウボラ事業の周知方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接を行った妊婦に、妊娠を祝福し生まれてくる赤ちゃんを歓迎するメッセージとして「育児パッケージ」（1万円分の肌着）を配布（財源）東京都出産・子育て応援事業「ゆりかご・とうきょう事業」から100%→今後補助が廃止される場合の財源に課題がある</li> </ul> <p>④ネウボラ相談体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健サービスセンター：開庁時間に保健師が応じる</li> <li>八千代助産院：365日助産師が応じる（9時～17時）</li> </ul> <p>⑤各種事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊型ショートステイ事業 産後、家族から十分な援助を受けることが困難で、心身の不調又は育児不安等がある妊婦を助産院や医療機関で受け入れ、母体の回復を図り、育児等の支援を行う。</li> <li>・ママと赤ちゃんのホッとサロン 産後、心身の不調もしくは育児不安がある、又は家族等から十分なサポートが得られない妊産婦が、安心して休息・相談ができ、育児スキルや赤ちゃんとの接し方を学ぶ場。</li> <li>・サタデーパママタイム 月齢の近い子どもを育てる父親を含めた親同士の交流をはかる、外国人の参加もある。</li> </ul> <p>⑥他部門・他機関との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の会議体を利用したり、随時連携を行うことによって平成26年711件→平成29年1,423件に増加している。</li> </ul>		

## 様式2

### 所 感

- ・文京区ネウボラでは外国人の利用もあり、多文化共生が今後進むことを考えた時に、宗像市においても相談窓口の多言語対応策を進めて行くべきだと感じた。
- ・「市民サービス自体がソーシャルキャピタルの醸成につながって行くこと」をあらかじめ職員が認識して取り組んでいることは重要だと感じた。本市でも、自治会や町会の高齢化、担い手不足は今後さらに進むことが予想されるので、この考えを今まで以上に訴えて行く。
- ・ダブルケアの問題、父のキャリア、母のキャリアなど個人では対処しきれないような課題、その多様化が進展している状況において、限られた財源の中でどうバランスをとって行くべきか考えさせられた。

### 視察の様子







# 領 収 証

No 004859

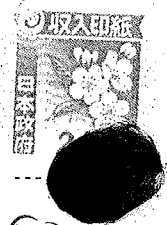
宗像市議会 安部 芳英 様

30年 11 月 07 日

金 額			4		
			7	65	340

現 金	
小 切 手	
銀 行 振 込	

但し 12/1-12/18 旅費視察にて  
上記の金額正に領収いたしました



株式会社クリスタ

〒810-0072 福岡市中央区長  
KBC会館 2階  
TEL 092-751-8686 / FAX



担当印

# EDON

エディオン

2019年02月19日

## 領収証

安部 芳英 様

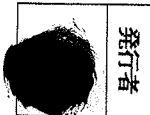
様

金額 ￥7,916-

但し 引当金

消費税等586円含んでおります

発行者



株式会社 エディオン  
(作成地)  
大阪府大阪市北区中之島二丁目  
3番33号



発行店 No.001852107  
宗像店  
電話番号 0940-34-8211

金額	内訳
現金	7,916
クレジット	0
ギフト券等	0
ポイント	0
振込	0

### お買上明細書

発行日 2019年02月19日(火) 16:55  
店：00941 宗像店  
TEL 0940-34-8211  
担当者：  
POS：001

プリンタ消耗品  
エプソン  
IC66L80L  
4988617194076 1 ￥7,916

上記「お買上明細書」の金額はお買上金額を表示するもので、領収金額とは異なる場合がございます。

# 領 収 書

No.1

発行日 2018年6月11日

安部芳英

様

下記、正に領収いたしました。

金額: ¥68,472

但 平成30年3月議会報告書2,000部 デザイン及び印刷代として

内 ¥63,400  
消費税等 ¥5,072

株式会社ジェイワーク

〒811-4

福岡県

赤間3-4

TEL:0940-51-1030

FAX:0940-51-1033

領収書は電子データで  
送付されたものである。

# 領 収 書

No.2

発行日 2018年8月13日

安部芳英

様

下記、正に領収いたしました。

金額: ¥68,472

但 平成30年6月議会報告書2,000部 デザイン及び印刷代として

内 ¥63,400  
消費税等 ¥5,072

株式会社ジエムエフ

〒811-4

福岡県宗

赤間3-4

TEL: 0940-51-1030

FAX: 0940-51-1033

領収書は電子データで  
送付されたものである



# 領 収 書

No.3

発行日 2018年10月26日

安部芳英


様

下記、正に領収いたしました。

金額: ¥68,472

但 平成30年9月議会報告書2,000部 デザイン及び印刷代として

内 ¥63,400  
消費税等 ¥5,072

株式会社   
〒811-41  
福岡県宗  
赤間3-4-  
TEL: 0940-51-1030  
FAX: 0940-51-1033

領収書は電子データで  
送付されたものである

# 領 収 書

No.4

発行日 2019年1月25日

安部芳英

様

下記、正に領収いたしました。

金額: ¥68,472

但 平成30年12月議会報告書2,000部 デザイン及び印刷代として

内 ¥63,400  
消費税等 ¥5,072

株式会社ジエイロク

〒811-4

福岡県

赤間3-4

TEL: 0940-51-1030

FAX: 0940-51-1033

領収証は電子データで  
送付されたものである



いつも全力！

大切な宗像のために。

# 安部 芳英

宗像市議会 建設産業常任委員会 副委員長  
〒811-4175 宗像市田代6丁目1番  
Tel./fax 0940-32-1386  
Eメール abeyoshihide@gmail.com  
ホームページ http://abeyoshihide.jp/



？あの提案はどうなった？  
現場を録音から聞いた地震対策の取り組みの必要性

平成30年度6月議会一般質問  
2030年までに何をすべきか



水害対策への課題

城山中学校の校舎建て替えに関して

## 大塚府北部地震及び西日本豪雨により被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます

市議になって一番最初の質問テーマが正に水害対策でした。父が区長の時に市に請願書を提出することになり、その素案を私が作成した経緯があります。(30歳くらい?) 大きな予算を必要とするので中々すくに対策ができる訳ではありませんが、市長始め市議、県議、国会議員の先生のご尽力で対策がされてきていました。しかし、物理的な課題や降雨量が増えて来ている事も影響して今回冠水してしまいました。県内でも被害が大きい地域から優先的に対策を講じていくことは当然であると思いますが、本市において計画の検討や協議の場は予算がなくてもできると思いますので、今後も宗像市の水害対策については同僚議員と連携して地道に訴えて行く予定です。(執行部も日々ご尽力していただいていることは承知の上ですが。)

## 城山中学校の校舎建て替えに関して

議員になって以来常に様々な角度から指摘や意見を行なってまいりました。

### ①平成25年3月議会一般質問より

初当選後、2回目の議会にて、現職議員として最初に城山中学校の校舎建て替えをテーマに、校舎や移転案の可能性について質問を行いました。

現在の赤間小学校、城山中学校の状況は、教育の質的(1人当たりの面積)な機会均等が損なわれているのでは?

施設面だけを取り上げた場合、若干厳しい状況にある。

城山中学校の建設は昭和49年であり、老朽化が深刻な建物に該当する。さらに、平成8年以降、16年間老朽化対策としての工事はなされていない状況。国の言うように、耐震化と老朽化対策は別次元の課題であると捉えれば、城山中学校は老朽化対策においても懸念がある、建て替えを推進すべきでは。

平成25年度中に教育部に通学区域の見直しを含めた適正な学校配置に関するワーキングを立ち上げたい。

平成26年2月『コミュニティ会長やPTA会長らによる  
改築基本方針検討委員会が設置され提言書が提出される』

### ②平成27年3月議会一般質問より

庁舎の建て替えを引き合いに出して、市長の城山中学校のように子ども達が使う施設を最優先に考えて行く旨の答弁を引き出しました。また、賛成討論の場で城山中学校の早期建て替えの要望も行いました。

基本方針検討委員会からの提言を受けた後、平成27年度は耐力度調査、基本構想の作成に取り掛かることが明らかになる。

### ③平成28年3月議会一般質問より

質問により耐力度調査の結果、既存校舎のコックリート躯体の中性化に部分的に老朽化が進んでいる箇所があることが判明しました。また、校舎の老朽化が進み過去5年間で2400万円の維持修繕費が発生していることも判明しました。城山中学校の早期建て替えが安全性、コスト削減の両面から有効であることを訴えました。

平成28年3月『宗像市立小中学校適正化検討委員会  
設置され、学校の適正化に関する庁内協議が始まる(全7回)』

平成29年4月『市内に城山中学校建て替えに関する  
担当部署が設置される』

### ④平成29年12月議会一般質問より

翌年に任期満了を迎える谷井市長へ、ここ数年硬直状態にあるように感じていた城山中学校建て替え議論に対して私なりの問題提起をするつもりで、視点を変えた質問をしました。

城山中学校の建て替えは教育部門の国家百年の計という捉え方だけではなく、宗像市の将来を見据えたようなまちづくりである、資産の評価、今の敷地を有効活用したらどのぐらいの評価があるのか、どういった定住施策に結びつけることができるのか、民間に広く公募して、サウンディングというもので社会的に評価をしていただきたいが。

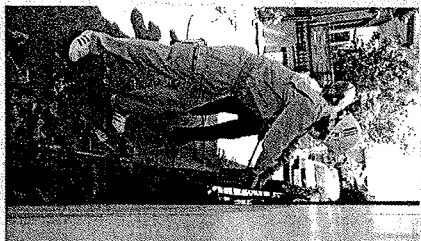
城山中学校の建て替えをまず進めなければ、機能するのか耐震の問題などを県、国に対して納得させる、説明していくことが大事、その上で敷地について考えるべき。

### ⑤平成30年6月議会一般質問より

就任直後の伊豆新市長との最初の質問機会にて、校舎建て替えをエリアマネジメントで行うことが市の将来にとって必要だと訴えた上で、建て替えに関する経緯、進捗について説明会を開くように求め、説明会を開催してもらえなくなりました。

# ?あの提案はどうなった?

## 現場経験から感じた地震対策の取り組みの必要性



2016年5月に熊本地震の支援活動で倒壊したり傾いてしまったコンクリートブロック塀の撤去作業を行いました。その現場経験から、同年6月に一般質問で無筋など現行の建築基準を満たしていない事が要因で地震時に倒壊の恐れがあるコンクリートブロック塀の撤去や改修に補助を出す制度の必要性を強く訴えました。また、類似事例を調査する中で福岡市が西方沖地震の教訓から同様の制度をすでに創設していた事実を知り質問時にも参考情報として説明していました。

その時の提案では通学路にある現行の基準を満たしていない恐れのあるコンクリートブロック塀等の危険性についても言及しておりました。新聞などで国も学校や通学路などの安全点検、改修への補助を検討して行く必要があることを認めています。

それとは別に、公共施設の安全確認、点検については行政の技術者不足などから目視点検程度しかできていない状況や学校現場には建築の専門家もいない実情を確認した上で地域の建築士会などの専門家の力を借りて点検して行く体制や仕組みが必要だと提言しております。なぜなら自治体の技術者不足はこれから益々進展しますし、地域の専門家の力を借りることは万が一被災した時の復旧作業にも役立てることができるからです。地震は防げませんが被害を最小限にするための創意工夫の余地はきっとあるはずですので。取り組みが早く広がることを心から願います。

## 平成30年度6月定例会 一般質問 安部よしひで提案内容

### 2030年までに何をすべきか

2030年には総人口約9万人、高齢者人口約3万人、生産年齢人口約5万人となり、労働者人口などの減少による市税収入の減少、社会保障制度の悪化等による日常生活困難者の増加、農村荒廃の深刻化や介護、医療の問題など、様々な事象が生じることが危惧されています。

## 2030年までに何をすべきか

国内の人口が減少する中で、隣町から住民を呼び込む施策だけでは限界があることから、2030年に向けて多文化共生(インターカルチュラル)政策を進めるべきだと政策立案の必要性を訴えてきたかどうか。最近になり国も前向きに多文化共生社会へ進み始めています。最近になり国も前向きに多文化共生政策を推進すべきでは?

3月議会での質問を受けてすでに市内国際団体に対してヒアリングなどを開始している、今後宗像市国際交流指針の見直しも視野に入れて整理を進めて行く。

宗像市においても持続可能な開発目標SDGsを打ち出してはどうか? 多文化共生以外にも環境保全など、他の開発目標の項目など時間をいって研究させて欲しい。

まちの拠点である駅から300m圏内に位置し広大な公有地である城山中学校の整備については、教育施設の環境整備という一点で議論を行うよりもエリアマネジメント(都市経営)の視点も併せて議論していくことで、立地適正化、地域の活性化、定住化、企業誘致、雇用の創出、都市再生等の推進に貢献でき、結果として2030年対策にもなり生徒やまちの将来にメリットがあると考えられるかどうか?

現在方針が定まっていないので現段階で言及できないが、国の指針の中に多機能、健康的、地域の核、避難機能などの項目があり、そういったことからエリアマネジメントの視座の可能性はある。ただ、今現段階では移転や現地建て替えの手法自体定まっていない。

移転か現地か、メリットデメリットを比較するためには調査が必要になるが、その調査すらまだ行っていないかわりか、調査予算を削減しているのはどうということなのか?

課題を整理した上で調査費の計上を行う。

スケジュールでは今年度中に方針を決めるとあるがPTA、地域住民、関係者に全く説明がないまま話が進んでいるのではないかと危惧している、説明会を開催して欲しいか。

今までの経緯の説明については説明にあがらせていただきたい、内容については今年度いっぱい待って欲しい。

他自治体の学校では8年前から地元自治会やPTAと移転建て替えの検討をしているのに、宗像市は残り6年しかないのにいまだ地元自治会やPTAに説明がない、今まで一体何をしていたのか不満があるので、新市長には一度城山中学校に来て欲しいし、保護者や地域の声を聴いて欲しい、説明会を開催して欲しいと訴えました!

女性の働く機会と場所を増やす為に女性の雇用につながる企業誘致とそれをを行う専任部署、予算が必要だが対策は?

就業を支援する行政窓口の在り方や予算の確保を含め検討していきたい。

参考としてハローワークの中にはマザーズワークというものがあ、宗像市でも検討できないか?ハローワークと同じフロアに男女共同参画推進課があるので工夫して、働きたい女性が行きやすい環境を整えることができるか?

関係機関と協議しながらそういったものの誘致に向けて進めて参りたい。

行財政改革について、私有地の活用策や新たな収入増加策、コスト削減を推進するためには、庁内を横断的に調査分析が行える部署の設置や民間への委託が必要だと考えるがいかがか?

これまでも横断的な推進を行ってきた行政改革系を中心に推進していきたい。民間委託については先進事例の調査を行いながら検討して参りたい。



いつも全力！

# 安部 芳英

宗像市議会 建設産業常任委員会 副委員長  
〒811-4175 宗像市田久6丁目1番  
Tel / Fax 0940-32-1386  
メール abeyoshihide@gmail.com  
ホームページ http://abeer-yoshihide.jp/



平成30年度3月  
議会一般質問  
救うのは  
漫画の力を  
まっすぐに活用！

①漫画の力をまっすぐに活用！  
②2030年 その時宗像を救うのは  
③宗像市も漫画の持つ力について理解を...  
④2030年 その時宗像を救うのは

頑張る市民を全力で  
バックアップ！  
～訪問編～

## 平成30年度3月定例会 一般質問 安部よしひで提案内容

### ① 漫画の力をまっすぐに

漫画の持つ力 → 「理解しやすく、主人公(当事者)になれる」

#### これまで行ってきた提言

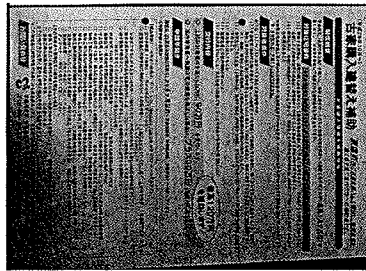
- ① 宗像の地名や史跡、施設などを本やアニメ、ゲームソフトなどに使用してもらえよう  
に、自薦、他薦で募集し、作品はタウンページやSNS、ホームページ、図書館などで取  
り上げ、功績のあったものについて表彰する
- ② 芸術家の発掘、育成、活動の場の創出と、宗像の魅力の世界発信や離島観光振興など  
に活用する機会の創出を目的として、芸術作品、音楽、絵本、アニメ、映像などの作品  
公募を行う
- ③ 宗像の魅力を国内外に発信すること、企業誘致、産業誘致、健康増進、スポーツ振興、  
観光振興、全てのまちづくりのブランド化を図ることを目的に、宗像応援大使を創設し  
この中で漫画家を任命する
- ④ 映像を活用した宗像の継承の必要性

- ？あの提案はどうなった？
- ①多くの市民が利用するふれあいの新運動公園の課題改善
  - ②防犯カメラ付自動販売機の設置



宗像市の事業に漫画を活用することでどのような効果が期待できるか。  
執行部に対して宗像市の従来の定住化のチラシと市民に依頼して漫画制作して  
もらったチラシを比較して説明を行いました。

従来の定住化のチラシ



文字ばかりで読みづらい...

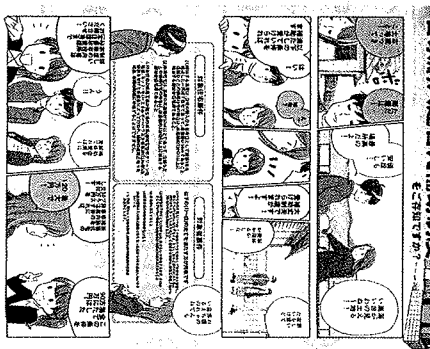
あんまり頭に入らな  
いから



市民に依頼して漫画制作して  
もらったチラシ

当事者目線で理解しやすい！

そうそう！私も思った!!



#### 古家購入建替え補助制度

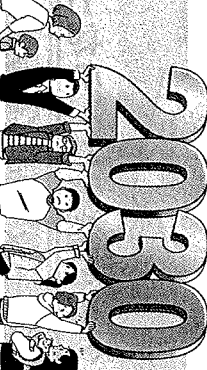
### ② 2030年 その時宗像を救うのは

2030年には総人口約9万人、高齢者人口約3万人、生産年齢人口約5万人となり、労働人口の減少による市税収入の減少、社会保障制度の悪化などによる日常生活困難者の増加、農村荒廃の深刻化や介護、医療の問題など、様々な事象が生じることが危惧されています。

#### だから区を手を尽くさなければなりません!!



2030年宗像を救うのは市民です、特に将来宗像を担う世代も含めて丁寧に時間をかけて危機感の共有をしなければ、だれも責任を持たないままその時を迎えてしまいます、2030年に向けて市民の意識共有を行う必要があるのでは？



市民との意識共有については広報誌での情報提供や機会を設けることも検討していく。



日本の人口は確実に減少傾向にありますので、隣町から住民を呼び込むような定住施策には限界があります。元祖国際都市を標榜する宗像市が国際交流政策にとどまらず、いまだ多文化共生に関する具体的な政策や具体的なロードマップがないので、交流から、多文化共生(※インターカルチュラルシティ)政策へシフトすべきでは？

今後研究してまいりたい。



過去、誰も多文化共生に関して触れてきませんでしたが、今回宗像市の将来に大きく影響する政策提言を行うことが出来たと感じたと思います。

#### ※インターカルチュラルシティってなに？

移住者や少数者によってもたらされる文化的多様性を、脅威ではなくむしろ好機ととらえ、都市の活力や革新、創造、成長の源泉とする新しい都市政策として、欧州ではこのアプローチが注目されています。



## ？あの提案はどうなった？①

### 多くの市民が利用するふれあいの森運動公園の課題改善

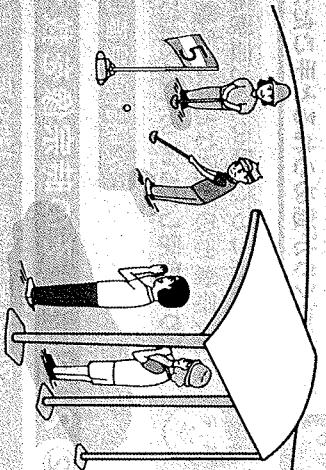
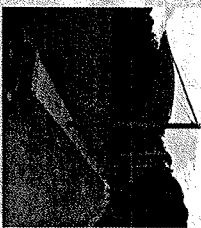
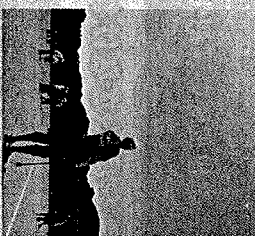
平成27年3月定例会、平成28年6月定例会の一般質問において駐車場の増設の必要性、グラウンド状況、日陰スペースがないことの課題についてグラウンドゴルフやソフトボール大会などに出場し現場の不備、課題を体感したうえで執行部に指摘を行い、対策を求めていました。

平成30年4月1日より、公園がリニューアル

されて屋根が新設され日陰スペースが確保されたことで、より多くの利用者で賑わっています。



実は私、宗像市グラウンドゴルフ協会最年少会員です



## ？あの提案はどうなった？②

### 防犯カメラ付自動販売機の設置

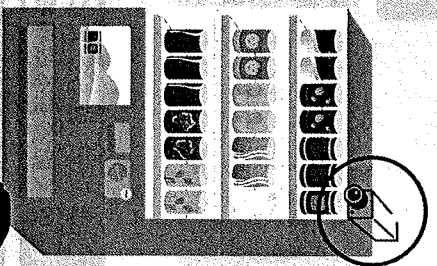
青少年を巻き込む卑劣な犯罪が多発しており、その解決のきっかけに防犯カメラの存在があります。

平成26年6月定例会で、公共施設に設置されている自動販売機を、防犯カメラ機能が付いた自動販売機にすることで、防犯カメラ設置コストやメンテナンス費用の抑制などができると検討してかてはと提案しております。

今回、防犯カメラ支援NPOと宗像市とで協定書が交わされ防犯カメラ支援自動販売機が市内に設置されることになりました。提案当時に事例の情報を提供してくださった方々、応援してくださった方々のご尽力が実りました。



自動販売機でも防犯カメラが見張っている！



市民による防犯活動と防犯カメラの設置で、宗像市の安心安全がより一層強化されると思います。



## 頑張る市民を全力でバックアップ！～タイ訪問編～

宗像市を拠点に活動する女子フットサルチーム「フエルサ」の未来監督からの相談を受け、3月25日～27日タイ王国を訪問しました。

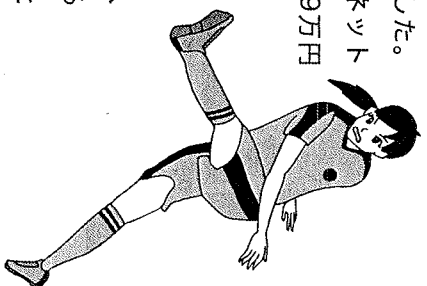
選手の渡航費の一部は「クラウドファンディング」(インターネットを通じて多くの方々に寄付を呼び掛ける仕組み)を活用して9万円ほど資金が集まりました(不足分は選手の自己負担です)。

訪問にあたっては在タイ福岡県事務所の職員のご協力をいただきました。

女子サッカーの代表選手も所属する女子チームと試合し、タイの男子フットサル代表チームの監督の指導を受けることも出来てフエルサメンバーはとても充実した遠征となったようです。

また、宗像市の鎮国鯉頭や海外向けの宗像の紹介冊子などをタイの選手に渡し、宗像市のPRもすっかり行ってきました。交流の様子は西日本新聞でも取り上げられ反響もいいただきました。

最終日は日本国大使館を表敬訪問させていただき、宗像市の谷井市長からお預かりしていた親書を、対応していただきました。今年10月には福岡市にタイの総領事館が開設される予定ですので、福岡県(宗像)とタイの友好、スポーツ交流を築く取り組みを続けていきたい旨をお話しさせていただきました。



▲タイの女子フットサルチームと交流するフエルサ



▲交流の様子が西日本新聞に掲載



プライベートを利用して、タイで宗像をPRしてきました！女子フットサルのワールドカップが日本で開催される時には、是非宗像市で海外の代表選手がキャノンブをしてくださるように、アンテナを立てて活動に邁進する所存です。

## 2018年6月20日の定例会での質問予定

- 2030年までに何をすべきか
- ナイトタイムエコノミーについて



ご期待！



宗像市議会 建設産業常任委員会 副委員長  
あべ よしひで  
〒811-4175 宗像市田久6丁目1番  
Tel / Fax 0940-32-1386  
Eメール abeyoshihide@gmail.com  
ホームページ http://abe-yoshihide.jp/

# 安部 芳英



公式HP

北海道胆振東部地震により被害に  
運われた方々に心よりお見舞い申し上げます  
議員活動報告書2の18秋号

## 1 ナイトタイムエコノミー 施策について

※ナイトエコノミーってなに? 日没から日の出までに行われる経済活動の総称

### ★ 夜間、早朝の観光資源を活用した「ナイトタイムエコノミー」施策の推進

- 観光客や市民が夜にお金を使う場所や機会の創出
- 域内消費額の増加
- 域内経済効果が見込める

### 1 「ナイトタイムエコノミー」の具体的な施策の可能性について

Q1 宿泊施設と市内事業所との連携を市内全域に広げるためにバス、タクシー割引制度の導入について検討していただきたい。



交通事業者への割引制度については、行政が直接的な支援とか助成ということよりも、宿泊事業者、交通事業者、バス会社、タクシー会社、飲食事業者で連携してできるような方策も考えられるので、積極的な支援や調整は行っていく用意はある。

Q1 文化、スポーツに限らず一定数以上の宿泊客が見込める全国大会等を市内で開催する場において交通手段の確保や宿泊費の補助などの支援制度を市内で連携して検討することができないか。

今後は観光コンベンション事業、MICEの誘致支援策として、現在の補助制度の整理や改正を視野に入れて検討は進めていきたい。

Q2 東郷駅、赤間駅、教育大前駅(バスセンター)にも近接している)の駅周辺で夜のイベントを行う場合に、来場者の消費行動がイベント域外にまで波及するような経済効果が期待できる場合に限って費用(駐車場代、警備代、照明設備費、公報宣伝費、テント・屋台設備費)の補助を検討することができないか。

中心商業地への誘客効果や消費の促進などが期待できる事業に対しては、市の補助金による支援や国県の補助支援制度の活用などのほか、いろいろな支援を行っていきたい。

Q2 赤間駅北口広場(近隣固定資産価値から試算した資産価値6,000万円)の設置目的(賑わいの創出と防災拠点)と利用状況(年間に1度行われる祭りで8,000人が利用)を見る限り、利用者増加のための対策が必要ではないか? 活用策、創意工夫として、スチーパやジェルター屋根の設置を検討できないか。

まずは小さなイベントでも構いませんので、そういったイベントを積み重ねていただく、そういった実績をまずは積んでいただくことが重要である。市としても、地元こそそういった意向があれば、積極的な支援は行っていく。

Q3 宗像大社神祭備祭、赤間祇園祭、八所宮の御神幸祭・古式大名行列など夜の伝統文化行事を観光資源として活用することはできないか。

宗像大社や赤間、吉武などの伝統文化行事を観光資源として活用し、賑わいづくりにつなげていくことは、大変意義あることと考えている。また、観光客の誘導とあわせて、観光消費にどうつなげていくかも考える必要がある。さらに、市内か、県内か、県外かなど、観光客の誘導の対象エリアやどのような観光客を対象とするのかによっても、活用する観光資源も変わってくるものと考えている。いずれにしても、このような伝統文化行事の情報発信には今後も努めていく。

Q3 関係者との協議を前提としたうえで、海の道むなかた館の広場でナイトパザールを開催、高宮神祭備祭をパブリックビューイングなどすることで地域や保存団体が活動費にお金が落ちる機会を作れないか。

大型スクリーンなどを利用して、多くの人に、幽玄で古代祭祀を思わせるような神事を見ていただくというのは意義あること。実施に当たっては、その費用対効果、あるいは神事であるために、宗像大社との調整、施設の所管である郷土文化課との協議等も含めて検討する。



市の財源に限りがある中で、祭りの後継者不足や維持保存のためには資金が必要で、そのための収益を確保する場が必要なので、お金の回る仕組み、そのための支援をしてほしい。

Q4 市民や市外からの来訪者に本市の夜を満喫していただき消費喚起につなげるためにナイトマップを作成することができないか。

ナイトマップの作成については、市として補助金以外に団体間や事業者間の調整など、いろいろな支援は行っていきたい。



宗像市民の半分はサラリーマン、地元というよりも、どちらかというところ外で働かれる方です。つまりその方が地元の飲食で飲み食いをしてもらおうと、もって宗像の経済はよくなる。市民に向けてもこのナイトマップ、赤間駅前、東郷駅周辺、もあるん教育大前駅周辺も、夜の消費できる場所があるというところを、市として発信、チラシで全戸配布するよう取り組みをぜひ検討していただきたい。

Q4 本市で最も観光客が多い時期と言える10月1日～10月3日までを「宗像市世界遺産の日」として条例を制定することで、観光振興及び、歴史文化を大切にすることを市民意識の醸成及び、市民による域内消費の喚起につなげてはどうか。

各部署等とも検討を行ってまいりたい。

Q5 市民体育館の屋根付き運動場を夜間利用可能にできないか。

中央公園の屋外スポーツ施設が更新時期を迎えてきているので、その計画の中で、ゲートボール場の夜間照明のことについても検討させていただきたい。



## 2 ふるさと寄附制度が無くなる前に

### 寄附収入 15億円超 域内経済に大きな効果を生んできている

しかし、熊鷹省がふるさと寄附金の返礼品の返礼率の見直しを全国の自治体に求めたため、今後返礼率の見直しによる寄附額の減少が懸念される。また、ふるさと寄附制度は全国の自治体同士で競争を奪い合うイメージもあり、制度自体の廃止も想定される。

数値で成果を測れるため自治体の意識改革にも良い影響を与えており、自治体間の磨きあいもつなげられている



### 1 特産品等導入の成果と今後の課題

ふるさと寄附の返礼品に特産品等を導入した成果(返礼品スタート以前と比較し、寄附額、寄附件数、参加事業者数、登録特産品数、雇用、経済効果、出店者の声)と今後の課題は。

寄附額	3,300万円(H26年度)	15億6,000万円(H29年度)
寄附件数	250件(H26年度)	73,600件(H29年度)
参加事業者数	22事業者(H27年度)	58事業者(H29年度)
登録特産品数	110品目(H27年度)	400品目(H29年度)
市から事業者への返礼品の支払額		6億1,700万円(H29年度)

#### 課題

返礼率の制約がかかっている中、どのようにして、これまでのような寄附額を獲得していくのか。

### 2 むなかた応援大使、宗像市観光大使について

Q1 費用と具体的成果は?



・現在8名 ・名刺代 13万円  
・SNSやインターネットでのPRなど

むなかた応援大使について  
各界で活躍しており、宗像にゆかりのある方、応援してくださいる方に、その知名度や経歴をいかして、応援してもらう



宗像市観光大使  
・ポスター撮影、PRの販促グッズ代約300万円(平成28,29年度)  
・宗像での各種イベント参加 ・ラジオなどでの宗像のPR

#### 成果

ラジオ、テレビでの宗像のPR  
全国のファンへ宗像の認知度を向上  
イベント参加者などの来訪  
平成28,29年度 計2回  
寄附申し込みの備考欄に特定の言葉を  
入れるとサイイン入りの名刺がもらえる  
139件 158万円  
経済効果  
1,000万円以上

Q1 ②

応援大使については8人それぞれに活動していただいている。今後も後押ししてほしい。宗像市に返礼された方は30,40代が主で関東圏＝ぼっちゃん少女隊さんのファン層  
是非宗像の特産品とぼっちゃん少女隊さんと連携を進めていただきたいが。

ぼっちゃん少女隊は宗像の知名度、あるいはふるさと寄附の増額に多大な貢献をしてくださっている。もし宗像でライブも開催ということになりましたら、その活用を、事務所の方と相談したいながら、検討していきたい。

### 3 寄附の返礼品について

Q1 ① 例えば、漁師、海女ちゃん、農家など生産者の定期便をつくり、安定収入と本市のファン化、困い込みにつなげることができないか。

更に継続購買につなげるような、つくり手の見える返礼品の開発の検討

ふるさと寄附金は大切な制度だが、近年制約が増えている。今まで以上の魅力的な制度にするべき。一方で先を見据えて、ネット通販など、寄附金制度が無くなった場合の施策も検討すべきと考える。



ファンの方の力を借りながら、そしてまた、宗像のふるさと寄附に関わった方がもう7万人を超えていきます。その力へのさめなる魅力の発信、それからお礼につなぐ、是非検討していただきたい。

### 4 次の収入増加のために

Q1 ① そのための投資に寄附金を優先して充てるべきではないかと思うが、市の考えは。

早い段階で販路拡大、ネット通販、特産品開発、商品宣伝費、研究費など次の収入増加のための仕掛けつくりをすべき

宗像ファンを逃さないよう、あらゆる販売チャネルにつなげることが大事。寄附金の充当は別に、すでに活魚センターではネット販売に昨年から着手している。「道の駅むなかた」でも来年度開設に向けてネット販売の検討に入っている。市も販路拡大支援を行う。返礼品送付時に商品PRを同封し拡大に繋げている事業者もある。ふるさと寄附金をきっかけにして、売り上げを伸ばす事業者さんの働きかけもほしい。

### 3 インフラの有効活用策

Q1 ① そこで、インフラ(下水道)の有効活用を行い、かつ市民(特に高齢者)の利便性の向上につながるように、団地の一部において、流し台にダイオキシンを設置することができないか。

将来人口が減少していくことによって、宗像市の下水道処理量にも余力が生まれることが予測できる

宗像市下水道条例に規定する水質基準が満たされるダイオキシン排水処理システムの設置を認めております。よって、団地内の集合住宅においては、各戸でダイオキシンを設置し、敷地内に共同使用の排水処理施設を一つ設置する方法がございます。戸建ての住宅については、ダイオキシン排水処理部がセットになったダイオキシン排水処理システムを設置する方法で、下水道管を有効に活用していただき、市民の利便性が向上すれば、団地再生の一環になるものと考えます。





いつも全力！

宗像市議会 建設産業常任委員会 委員長  
あべ よしひで  
安部 芳英

〒811-4175 宗像市田々6丁目1番  
Tel / Fax 0940-32-1386  
メール abeyoshihide@gmail.com  
ホームページ http://abe-yoshihide.jp/



議員活動報告書2019年新春号  
新年あけましておめでとうございます。  
2019年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 挨拶

2012年の初当選以来、北崎議員とともに会派「とびうおクラブ」にて、切磋琢磨しながらまちづくりで全力で邁進してまいりました。これまで活動に対しまして、温かいご支援を賜りましたこと感謝申し上げます。

二人がさらにバージョニアツクするために、「とびうおクラブ」は2018年12月をもって発展的に会派を解消いたしました。ご報告が遅くなったこと心よりお詫び申し上げます。

今後、北崎議員は「むなかたクラブ」として、私は「放道むなかた」として、よりよい宗像市にするために歩んでまいります。今後もご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## 1 豪雨と共存できるまちづくり

### ● 内水氾濫による被害軽減対策について

Q1 雨水貯水タンクや浸透枳の設置助成を検討することができないか。



検討したが費用対効果が低いと判断した。

Q2 日の里や自由ヶ丘など比較的都市部となる地域に限定して検討できないか。

効果が非常に小さいことから設置助成の導入を予定していない。

私は案を出したのでもっとも具体的な案を考えると欲しいです！

Q3 大規模施設などに調整池や浸透枳を設置することや、浸透性舗装、芝生駐車場(グラヌパーキング)などを整備することにより雨水の一時貯留や浸透機能の向上を図ることができないか。また、学校や公園、公共施設において貯留施設や雨水浸透枳地帯(ラインガーデン)などの浸透施設の設置をすることで水害対策と同時に市民啓発も併せて行うことができるか、検討できないか。

現段階でも箇所によっては浸透施設は導入しているが、今後も新たな施設設置の場合には導入を検討したい。

Q4 既存のため池(調整池)について、所有者の同意が得られた場合は事前放流による水位調整や池底の掘削による貯水機能向上を行うなど洪水調節機能を持たせるための検討ができないか。

現在生産者に文書で事前放流などの定期性管理の依頼をしている。掘削などは多額の費用を要し対象となる補助事業もないことから行っていない。

Q5 白水池の下流域の生産者の課題(昔は生産組合としてまとまった田植えなどの取水活動をできていたが、近年は後継者不足などの課題があり一元管理ができにくくなり、ため池からの取水時期も異なるために、今まで以上に貯水量を増やしておかなければならないために、梅雨前の事前放流について協力できないか状況がある)を説明した上で、事前放流のための事前調整ができないか。

まずは地元にて受益面積と貯水量の関係など状況確認をしたい。

要望 農水省が11月に重点ため池の基準を公表した事を説明し、白水池が認定された場合、農事という観点ではなるべく洪水調節機能の面で国などの補助金も引いてもらってほしいか検討して欲しい。

Q6 一定規模の開発行為について雨水処理に関する基準の見直しや条件付加を検討できないか。場合によっては昨今の豪雨状況、国県の状態を見れば必要であれば見直したい。

要望 豪雨に悩んでいる市民の想いを考えて、強く指摘し自分海として受け止めて欲しい。

Q7 沼川幹線 赤間第8雨水幹線、田久幹線など本市の中心拠点の水害に影響する恐れのある水路のしゅんせつ状況と今後のしゅんせつ計画は。

要望 現地を確認して影響ある部分についてはしゅんせつをして欲しい。

Q8 河川のしゅんせつなどのインフラの維持費用については多額の予算が必要となるが、市民の生命財産を守る観点から優先的に予算を配分して欲しい。

立地適正化など選択と集中を行いながら必要などころに予算をつけたい。

要望 赤間川周辺は宗像市の中心拠点であり、立地適正化の観点からも重要な場所なので、是非予算をつけて欲しい。

## 2 協働委託のあり方について

**Q1** 年間の広報編集業務委託は約1,100万円、ホームページ管理業務委託は約500万円と、他の委託業務と比較して高額である。これら二つの事業の委託の「必要性」・「依託額の「妥当性」、委託先選定の「公平性」についてどう考えるか。また、今後の考え方は。

市

**Q2** 広報作成業務は市内に振り付いて6人で1,100万円の委託となっている。職員人件費の妥当性や待遇、積算根拠の明確化など市民が納得のできる改善をして欲しい。

市

よりよいサービスを提供する観点からは市としてしっかりと指導したい。

## 3 シビッククライトを育む広報紙

**シビッククライトってなに?**  
 「まちに対する誇りや愛着」といった意味を持ち、思い込みにとどまらず、そのまちの課題解決や活性化といった、具体的な行動に取り組み姿勢も含んでいる。



**Q1** 本市の広報紙にシビッククライトの醸成、ファンを増やす視点や仕掛けはあるか。

市

**要望** 視察に行つた埼玉県雪房町の広報紙を紹介しながら、さらなるシビッククライト醸成のための工夫を望む。

**Q2** 広報紙は全戸配布が前提  
**課題** 自治会未加入の市民に対して配布できていないのが現状  
 民間のフリーペーパーのノウハウなどを活用して市内全戸に広報紙を配布する手法の検討ができないか。

広報紙の配布は自治会の貴重な収入源となっている面もあるので、全戸配布ができるように努力はしていきたい。

市

**Q3** 自治会の収入源を減らすという意図はない。広報紙の全戸配布は行政の責任である。責任を果たすためにどうすべきかという質問である。発行回数を月二回から月一回に減らしたり、各課で配っているチラシなどを合理化したり、フリーペーパーの中に挟み込んで全戸配布してもらうような工夫の余地はあると考えるかどうか。

そういったよその力を借りながら合理的に、正確に伝わるような形で全体を通じて検討してま

市

**Q4** 現在の広報紙の書体を誰にとっても読みやすいユニバーサルデザイン書体にできないか。導入に向けて検討する。

市

ユニバーサルデザイン書体(UDフォント)とは、ユニバーサルデザイン(文化・言語・国籍・年齢・性別などの違い、障害の有無や能力差などを問わずに利用できることを目指したデザイン)の考えに基づき、「できるだけ多くの人にとってわかりやすく読みやすい」ことを目指して作られた書体のことです。

※本紙は全てユニバーサルデザイン書体で構成しています。

**総括** 宗像市が全国で最初に職員によるDTP化を導入した事、隣の宮崎市では一人の職員がDTPにより、シビッククライトを育む広報紙を作成している事を紹介。  
 宗像市が行革、市民協働として広報紙を市内NPOに委託していることにも理解はするものの、広報紙を通じて命を守る情報や喜劇など生活につながる情報、まわつくりに関わってもらえるようなフーズづくりにもつながる紙媒体の広報紙の発行は重要なので、予算を増やしても検討して欲しい。



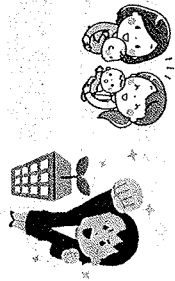
## トピックス 進行中のプロジェクトのご紹介

自宅の住み替え(自宅横に建て替え)が終わり、空いた旧宅を市内で活動するNPO(大学生による学習サポート)の拠点として使っていた空き家になりました。

この学習サポートを通じて、子育て支援、若者支援、起業支援、賑わいの創出、空き家の利活用など、様々な効果が期待できます。



市内には多くの空き家がありますので、まずは私が実際に家主として関わってみることで、経験値を上げて将来の空き家対策に活かしたいと考えています。



## 2019年も猪突猛進で頑張ります!

11月の臨時議会において建設産業常任委員長という身に余る役職を頂戴いたしました。2年間の任期期間中、議会での審議はもとより地域経済がより好循環していくように、日々研鑽を重ねて参る所存でございますので、ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願いたします。

